



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—S&P500 は連日で史上最高値を更新—

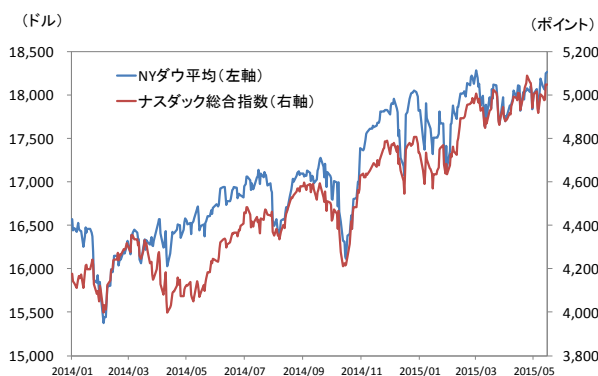
	前週終値	5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	18,191.11	18,105.17	18,068.23	18,060.49	18,252.24	18,272.56	+81.45	+0.45%
騰落幅		-85.94	-36.94	-7.74	+191.75	+20.32		
S&P500	2,116.10	2,105.33	2,099.12	2,098.48	2,121.10	2,122.73	+6.63	+0.31%
騰落幅		-10.77	-6.21	-0.64	+22.62	+1.63		
ナスダック総合指数	5,003.55	4,993.57	4,976.19	4,981.69	5,050.80	5,048.29	+44.74	+0.89%
騰落幅		-9.98	-17.38	+5.50	+69.11	-2.51		

＜先週の概況＞

先週の米国株式市場でS&P500は週間で6ポイント高となり14日と15日に連日で史上最高値を更新しました。ダウ平均も週間で81ドル高と続伸し、3月2日につけた史上最高値まで16ドルとなっています。

小売売上高や卸売物価指数が市場予想を下回ったことで利上げが先送りされるとの思惑が高まり、株高が進みました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



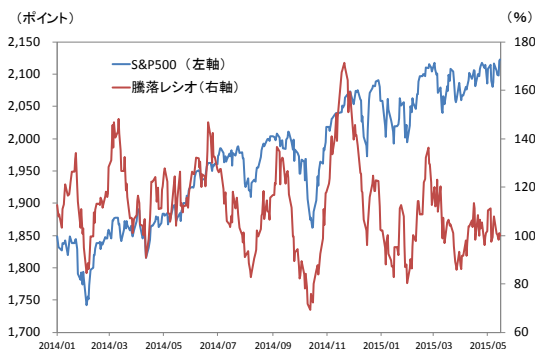
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	16.4	3.2	2.4%
S&P500	18.0	2.9	2.0%
ナスダック総合指数	22.1	3.7	1.1%

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年5月15日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

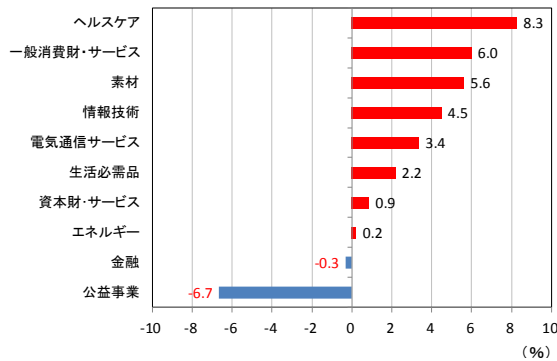
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

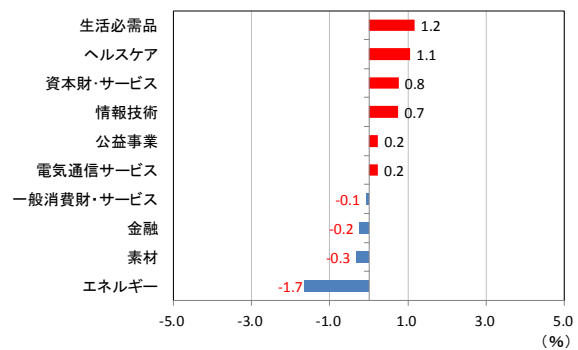
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (5/11-5/15)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
UNH	ユナイテッドヘルスグループ	3.2
NKE	ナイキ	2.5
MMM	3M	1.7
AXP	アメリカン・エクスプレス	1.6
KO	ザ コカ・コーラカンパニー	1.3
CAT	キャタピラー	1.3
GS	ゴールドマン・サックスグループ	1.2
MSFT	マイクロソフト	1.1
CSCO	シスコシステムズ	1.1
BA	ボーイング	1.0

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング (5/11-5/15)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール	-6.7
XOM	エクソンモービル	-1.8
TRV	トラベラーズ・カンパニーズ	-1.0
MRK	メルク	-0.8
VZ	ベライゾン・コミュニケーションズ	-0.7
CVX	シェvron	-0.6
GE	ゼネラル・エレクトリック	-0.3
MCD	マクドナルド	-0.2
PFE	ファイザー	-0.1

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中21銘柄が上昇、9銘柄が下落しました。ナイキ (NKE)、コカ・コーラ (KO) など消費関連の一角が堅調でした。

<下落>

デュポン (DD) は物言う株主との委任状争奪戦に会社側が勝利したことで、株主還元が進まないとの見方から週間で7%近い大幅下落となりました。ベライゾン・コミュニケーションズ (VZ) はインターネットサービスのAOL (AOL) を約44億ドルで買収すると発表し、小幅に売られました。

先週発表された主な経済指標

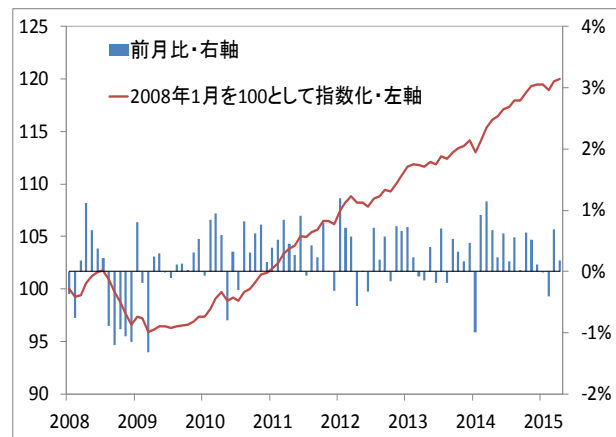
小売売上高（前月比） 4月 ±0% 市場予想 +0.2% 前月 +1.1%（上方修正）

小売売上高（自動車・ガソリン除く） 4月 +0.2% 市場予想 +0.6% 前月 +0.7%（上方修正）

13日に発表された4月の小売売上高は、前月比横ばいと0.2%増だった市場予想を下回りました。3月分は+0.9%→+1.1%に上方修正されました。また、変動の大きい自動車とガソリンを除いた売上高は+0.2%と市場予想の+0.6%を下回りました。

小売売上高は3月分が上方修正されるとともに、自動車・ガソリンを除いた売上高も前月比プラスと、決して悪い内容ではありません。ただ、冬場の落ち込みからの持ち直し期待が高かっただけにやや期待はずれといった内容となりました。

小売売上高（自動車・ガソリン除く）



(出所)マネックス証券作成

今後発表される主な経済指標

FOMC 議事要旨（4月開催分）



ジャネット・イエレン

FRB 議長

20日に4月28日から29日にかけて開催された連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨が公表されます。委員会の終了後に発表された声明文では米国経済が冬場に一時的な要因から落ち込んだとの認識や、企業の設備投資や雇用の回復ペースが鈍ったとの認識が示されました。事前の予想通り利上げは行なわれず、かつ全員一致での政策決定となりました。議事要旨では利上げについてどの程度詳細な議論が行なわれたのか注目されます。

また、22日にはイエレンFRB議長の議会証言が行なわれます。先日「米国株は割高である」という趣旨の発言を行ってマーケットを驚かせたことから、今回もどのような発言を行うかに注目が集まります。

マーケットビュー—タカ派的な FOMC 議事要旨とイエレン議長の発言に注意—

先週のマーケットビューでは、底入れしつつあると見られる経済指標を背景として、米国株は一段高となるのではないかと記しました。S&P500 が史上最高値を更新するなど、結果的には株高となったものの、今週発表された経済指標は前回発表時からの悪化や市場予想比下振れが目立ち、利上げの先送りが意識されて株が買われるという内容的には想定と大きく異なる結果でした（表参照）。

	小売売上高	新規失業保険申請件数	鉱工業生産	設備稼働率	ミシガン大学消費者信頼感指数
前回比	増加	改善	悪化	悪化	悪化
市場予想比	下振れ	上振れ	下振れ	下振れ	下振れ

(出所) マネックス証券作成

今週は FOMC の議事要旨発表に加え、イエレン FRB 議長の議会証言が注目です。それぞれ市場の想定よりもタカ派的な内容となれば、株価は一時的な調整となる可能性があります。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 165 号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
 一般社団法人 日本投資顧問業協会